

目次

口 絵

刊行のことば

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋 創一

監修のことば

東京大学教授 文学博士 佐藤 信

まえがき

凡 例

第一章 文字による支配と民衆

第一節 文字と文化

一 近世文書主義の展開

文書が伝えるもの 文書による支配 近世文書量の増加 文書による権利保障 文書の保管

文字学習需要と学問文化 花押と印章

二 庶民生活文化の向上

領内法度での規制 木綿世の風俗 流行に敏感な庶民たち 高級織物と嫁入り道具

天保十三年節句飾物儉約令 安政二年の儉約令 古式享保雜の発見 原町雛人形所大坂屋吉兵衛

祝儀にみる雛人形

第二節 庶民信仰の広がり 19

一 領主の寺社統制 19

寺社統制と本末制度 キリシタン類族と不受不施派 寺請制度と人口 仏教各宗派と庶民

真言宗寺院 曹洞宗寺院 浄土宗寺院 法華宗寺院 国分寺の文化財 遊行行者徳本

塩田四国霊場

二 村の神々 29

上田領の神々 諏訪明神の勧請 外からの神々 稲荷社、秋葉社、金比羅社 近世の生島足島神社

科野大宮社と塩野神社 常田・房山獅子 村の祭り 堂祭祀と神仏混淆

三 伊勢信仰の広がり 38

真田氏と伊勢社 伊勢参拝 おかげ参り 明和八年の流行 伊勢御師広田筑後

第二章 庶民文芸の発達

第一節 学問・思想の庶民化 47

一 士大夫の学芸 47

王朝文化への憧れ 京都伝統的世界と諸領主 上方風支配と上田 連歌と真田氏・仙石氏

能と茶道 文治政治の展開 権力と医療 藩主松平氏の学芸

二 武士の学問と庶民 56

儒学の新展開 安原貞平の学問と交友 宝暦騒動の論理と『小惑録』 桂希言と『孝民伝』

『封内孝民伝』の世界 明倫堂の創設と加藤維藩・山田維則 『独隠録』と『藩賢事略』

上野尚志と『小県郡年表』

三 文武学校の盛衰……………63

文武学校の創設 文武学校の拡張 兵学・砲術 明倫堂の総合学園化 教育課程の改革

第二節 文芸の庶民化……………67

一 連歌から俳諧へ……………67

真田信之の連歌 信濃最古の俳人忠寿 『俳江戶弁慶』の宗胖 元禄期の俳人たち

『俳江戶桜』と『俳京桜』 雑俳の流行 立羽不角と上田 中川宗瑞の影響 雲裡坊と上田

白井鳥酔と上田 建部涼袋の上田来遊 『惣社大明神奉納』 曲川編『丁亥歳旦』 春興帳『春の笑』

高桑闌更と塩尻 佐藤眠郎の活躍 闌更の影響

二 加舎白雄と門人たち……………77

加舎白雄の活動 『田ごとののはる』の上田門人 別所・手塚と白雄 大輪寺と白雄 主な白雄門人

成沢雲帯 岡崎如毛 小島麦二・玉馬 荒井三机 斎藤雨石とその一族 児玉左十

荒井争茂と菊成 井上坐井

三 俳人の来遊と上田……………84

小養庵支兀と塩尻 加藤晧台の来遊 高井几董の来遊 井上士朗の来遊 雪中庵系の木村湖丈

森田兀雨の上田定住 一茶と上田 上田に滞在した一茶 一茶の宿

四 文化・文政・幕末上田の俳人とその周辺……………95

別所の乙堂と斗入・嵐外ら 『豆から日記』の上田俳人 横山治泉の活躍

『信上当時諸家人名録』の上田俳人 小養庵確嶺と上田 日々庵半山と『くすり草』

京都で活躍した滝沢有節 異色の俳人高橋世南 上田に帰らなかった世南 海禅寺亀明の活躍

幕末期の宗匠 秋和の俳人たち

五 文人の世界……………108

地方文人 成沢雲帯のネットワーク 文政期の上田の文人 狂歌師田毎月丸と上田 和歌・短歌

六	幽学と上田の門人	上田の出版文化	117
六	草莽の学問	草莽の国学と篤胤没後門人	117
七	医学の広がり	権田直助と田子玄誓	117
七	医学の発達	考古学のめばえ	117
七	疫病の流行	近世前期の医療	120
七	蘭方医の登場	医師の誕生	120
七	和算の広がり	上田町へ移った村医勝侯道郁	120
八	伊能忠敬と測量	天体望遠鏡と渾天儀	128
八	武信の門人たち	和算家竹内善吾武信	128
八	上田地方の算額	数学は経世治国の用	128
九	数学測量所		128
九	蘭学の高まり		133
九	蘭学の先駆者赤松小三郎	佐久間象山愛蔵の辞書	133
九	佐久間象山愛蔵の辞書	佐久間象山の上田藩門人	133
第二章	庶民芸術の豊かさ		141
第一節	茶の流通		141
一	武家茶の展開		141
一	真田父子の茶	上田宗箇の茶	141
一	古田織部と仙石氏	松平忠晴と小堀遠州	141
一	松平忠周と片輪車手箱		141
一	松平家の茶道具	上田松平藩の茶頭	141
一	岸本宗宜と魚津加宗是	松平藩の茶室	141
二	町人の茶と茶人の交流		152
二	町人の茶	斎藤家の茶	152
二	成沢雲帯の茶	山極八郎右衛門の茶	152
二	加舎白雄と茶	長谷川長兵衛の茶	152
二	沓掛讓齋の茶	白木屋土屋家の茶	152
二	幕末に行われた上田の茶会		152
三	煎茶の広がり		159

第二節 花開く庶民芸術

一 書の世界

上田小県地方の書家たち 川合殷成の来住 儒学者安原貞平 俳人加舎白雄 学問師範桂希言

実相院僧寛融 亀田鵬斎と上田 活文禪師と佐久間象山 僧璞紋の書

竹内善吾・加藤維藩・恒川重遠 古松白鷺と御家流

二 絵画のたしなみ

絵師の誕生 上田の狩野派絵師 服部半左衛門元戴 農民出身画家狩野永琳 絵を楽しむ町人たち

椿椿山門人林霞峰と『江戸家乗』 横町出身画家木村喬輔 蝶蛾の画家合葉文山 練斎・玉僊・亭山

三 遊びと文化

信濃の蹴鞠 上田の蹴鞠 杏掛家の蹴鞠と将軍上覧 曲馬乗り見物 石尊の辻と江戸相撲

雷電の活躍と相撲興行 工藤孫兵衛・稲妻祐助 奉納相撲と若者組 插花・囲碁

執筆分担

あとがき

参考文献

上田市誌の編さん組織

表紙

八日堂縁日図（信濃国分寺蔵）

この八日堂市で農業に必要な種子や農具、日常生活の必需品が商われて、物資購入の機会にされていた。

裏表紙

紙本花鳥人物屏風（上田市前山龍光院蔵）

天明期の農民出身画家 狩野永琳の代表的作品